

平成29年度

学校関係者評価報告書

平成30年7月

筑波研究学園専門学校
学校関係者評価委員会

■平成29年度 学校関係者評価について

筑波研究学園専門学校では、平成20年度より自己点検・評価委員会を設置し、教育活動や学校運営について学校自己点検・評価を実施しています。また、平成25年度からは、企業及び業界団体や保護者、卒業生等の外部委員で構成する学校関係者評価委員会を設置し、同委員会では学校自己点検・評価報告書、学校運営・教育活動実績報告書をもとに議論し、学校運営や教育活動に対する点検・評価を実施しています。

以下、先般開催した学校関係者評価委員会の評価結果について報告します。

1. 実施日時・場所

平成30年7月27日(木) 12:25 ~ 15:00

筑波研究学園専門学校 6号館大講義室

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○評価委員 ※50音順

青木 貞雄	一般財団法人総合科学研究機構理事
浅田 順	学校法人霞ヶ浦高等学校理事長
大友 国彦	五籃会会長
古森 貞弘	茨城県立牛久高校元校長 筑波研究学園専門学校第5代校長
齋藤 鐵哉	国立研究開発法人物質・材料研究機構名誉顧問 一般財団法人総合科学研究機構センター長
竹内 俊作	一般財団法人日本自動車研究所業務執行理事
辻 信行	ツジ電子株式会社取締役会長 一般財団法人茨城研究開発型企業交流協会名誉顧問
中山 和則	公益財団法人筑波メディカルセンター 筑波メディカルセンター病院副院長
羽澄 順二	株式会社つくば研究開発支援機構監査役 株式会社カスミ元取締役
平塚知真子	株式会社エデュケーションデザインラボ代表取締役 一般社団法人みらいウェブ推進協会理事長
堀内 敬王	TIST 建友会会長、鹿島市役所
山田 孝行	株式会社筑波銀行執行役員本店営業部長
渡邊 壽恵	学校法人温習塾つくば秀英高校元校長 筑波研究学園専門学校元副校長

○学校関係

柿崎 明人	学校法人筑波研究学園 理事長 筑波研究学園専門学校 学校長
-------	----------------------------------

勝村 正巳 筑波研究学園専門学校 ものづくり学科長
杉山由紀夫 筑波研究学園専門学校 自動車整備工学長
吉川 勝 筑波研究学園専門学校 建築環境学科長代行
古田 精一 筑波研究学園専門学校 経営情報学科長
横瀬 和子 筑波研究学園専門学校 医療情報学科長
大森 淳子 筑波研究学園専門学校 こども未来学科長
野口 孝之 学校法人筑波研究学園 法人企画部長
筑波研究学園専門学校 教務部長
田邊 寛 筑波研究学園専門学校 事務部長
赤羽根隆之 学校法人筑波研究学園 法人企画部顧問
志賀 宏 学校法人筑波研究学園 法人事務局長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3) 評価方法：平成29年度学校運営・教育活動実績報告書に対する学校関係者評価

3. 評価の項目

次の10項目について実施

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

(1) 次の4段階で点数評価

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(2) 委員会で提出された意見や質疑、提案事項等を記載

5. その他

平成29年度 学校自己点検・評価を併せてご覧ください。

項目1 教育理念・目標

評価：3.90

- ①この項目は TIST「30年の礎」を成す項目である。イメージ・「顔」として評価4でよい。しかし、「新たな顔」へは「改善方策」として3（学校の将来構想）、5（各学科の方向づけ）項の実現が不可欠である。今後に期待したい。
- ②教育理念・目標などは設立当初より明確にされており、それに基づいて実践的な職業教育、人材の育成がなされている。
- ③産学協同のもと、実践的な職場教育を重視した課程を編成し、関連機関との連携を図っている。時代の変化に応じた学科の編成も視野に入れ、柔軟に取り組んでいる。また、入学希望者への対応も充実を図っている。
- ④専門職大学創設への検討は、今後の展開の上で重要である。
- ⑤平成31年度の専門職大学発足に鑑み、教育理念、目標は明確であり、そのためにも、教育関係諸機関等とも連携を密にし、より学校評価を高めていきたい。
- ⑥社会経済ニーズ等を踏まえた教育方針は折に触れて評議員会、理事会でも議論されて適正に設定されている。しかし、このような教育方針への対応は、学科によりかなり差を生じており、学校全体として今後一層の努力が必要である。
- ⑦社会・業界のニーズを取り込むことが重要である。自動車整備工学科では、企業技術講習会やインターンシップを取り入れているが、地元ディーラーのニーズ吸い上げに一層力を入れてほしい。
- ⑧産学連携の強化は長い間の問題となっている。学科により産学連携体制に差が見られるが、それは各学科の差（現場実習自体が教育課程に含まれており連携しやすい学科とそうでない学科）というよりも努力の問題と感じる。
- ⑨専門職大学については、クロスでも議論の対象となっている。開設がひとつの教育財団に偏っているなど、条件に耐えられる学校は少ないように感じる。
- ⑩文科省の説明会などでは当初、職業教育を行っている専門学校を格上げすることからスタートしたが、設置基準には既存大学の意向が強く反映されている。専門職大学の開設は全国でも限られており、専門学校・大学を抱える学校法人でも苦勞している。

項目2 学校運営

評価：3.70

- ①学校運営については、運営方針・事業計画、運営組織、意思決定機能が適切に整備されている。情報公開や情報のシステム化にも十分対応している。
- ②運営方針の策定及び教務や財務などに関する意思決定システムは、評議員会や理事会での審議、承認を含めて適切である。しかし、教職員への情報の周知はさらなる努力が必要である。
- ③学校運営に関する「状況と課題」で教職員の周知が指摘されているが、より一層学校全体で運営方針を理解周知にあたっていきたい。
- ④学校運営における経営者側と教職員との意識合わせが図られているのかどうか、働き方改革の社会動向も踏まえ重要なポイントである。
- ⑤学校と職員および外部との信頼関係構築の重要な項目。3（運営組織や意思決定機能）、4（人事、給与に関する規程等）、6（コンプライアンス体制の整備）、7（教育活動等に関する情報公開）項は厳しく3としたい。中でも7項は学生の安定確保には依然課題が残る。

- ⑥専門職（短期）大学、社会人受け入れ、人員整備、財務体質の強化など学校の将来に係る大きな問題を抽出、中長期的計画を策定して、学校運営に反映させていく必要がある。
- ⑦コンプライアンスの「しくみ」は風通しのよいものが望ましい。
- ⑧自己評価の方法で、各学科の評価を平均で見ると全体がボケてくる。どこに問題があるのか捉えることが重要であり、個々の独立した課題を捉えることが重要である。
- ⑨評価の際、実績データがないので評定が難しい。学校自己点検・評価で 4～3 の評価は問題なし、1～2 の評価がついた部分はあるのか？あれば、そこを重要視したい。

項目 3 教育活動

評価：3.70

- ①実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムが明確であり、より学科の特色を生かし、本校の魅力を広くPRしていければと思う。
- ②教職員の資質向上に対する取り組みについては評価できる。特に学科内での教職員の研修体制が学校全体に定着することを期待する。
- ③実践的な職業教育の充実に向けて絶えず努力している姿勢は高く評価できる。しかし、専門分野により取り組みに今なおばらつきが見られる。学校全体の一層の充実を期待したい。
- ④教育理念に沿った教育課程が編成されている。教職員に対しては、各科に必要な新しい知識・技術の習得や指導力の育成が必要であると考えます。
- ⑤この項目は「職業実践専門課程」の基本となるものである。2（各学科の教育到達レベルや学習時間の確保）、3（体系的なカリキュラム編成）、4（キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発）、8（職業教育に対する外部関係者からの評価）項は PDCA サイクルの基本中の基本項目である。また、11（要件を備えた教員の確保）、12（業界等との連携において優れた教員の確保等マネジメント）、13（先端的な知識・技能等の修得）、14（指導力育成や能力開発など資質向上を目指した研修）項は、将来に向けた最重要項目である。
- ⑥職業教育の高度化は検定試験等との兼ね合いもあり、在学年数の延長も検討すべきである。
- ⑦企業ニーズの把握・カリキュラムへの反映・教職員の能力確保は、自動車整備工学科の一連した課題と感じる。重点課題として総合的な取り組みが必要だと思う。
- ⑧教員採用にあたっては、専門分野・先端的な知識を持っているかよりも、教える意欲を持っているかが重要である。その人の教育に対する姿勢が大切である。

項目 4 学修成果

評価：3.80

- ①1（就職率の向上）、2（資格取得率の向上）項は評価できる。3（退学率の低減）項は工夫・努力を評価。学生の経済面および嗜好は困難な課題。4（卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握）、5（卒業後のキャリア形成への効果の把握）項は、将来へ向けて実践すべき課題である。
- ②進学・就職希望者に対する進路決定率は高い水準を維持している。退学者軽減に向け、連携した早期対応に取り組んでいる。
- ③就職率の維持、向上あるいは資格取得率の向上は、最重要課題であるとの認識のもと、今後

とも最大限の努力が必要である。

- ④全学科で資格取得率を設定し、平成 29 年度の内定率 99%は高く評価できる。一方、心身面、経済面の学生に対し、今後より支援指導が求められよう。
- ⑤卒業生のアフターケアの一環として、生涯教育システムの構築も考えられる。
- ⑥卒業生やその就職先企業から意見聴取をし、それによる教育内容を改善する体制を、学校全体で統一的に整備をする必要がある。
- ⑦卒業生を活用して社会のニーズを吸い上げることが効果的だと思う。要員確保が大変であるが、効率的な仕組みが出来ると良い。
- ⑧OBと学生の交流の場（実習とは別）があっても良いと思う。例えば、病院実習で受け入れられる学生は数名に限られる。入職後のギャップを減らすためにも、各医療機関でOBの意見を聞く機会を設けられるよう、企画を提案してもよいのではないか。
- ⑨卒業生の動向把握は難しいだろうが、卒業後 2～3 年位は把握したいものである。

項目 5 学生支援

評価：4.00

- ①学生への進路・就職への指導の他、経済的な支援や健康管理面の支援への取り組みも積極的に行っている。
- ②学生支援組織を明確にし、学生の対応に当たっている体制は評価されよう。この主旨を全教職員が共通理解し、かけがえのない学生一人ひとりに支援指導に当たっていききたい。
- ③1～7（進路・就職支援、学生相談、経済的な支援、健康管理、課外活動、生活環境、保護者との連携）項は従来から整備されていると評価する。8（卒業生への支援体制）、9（社会人受入を踏まえた教育環境）、10（高校・高等専修学校等との連携）項については、これからの課題だが、教員数、予算の削減からすると、大丈夫か。
- ④進路・就職指導、健康管理、生活環境、学生相談に対する支援体制は、専修学校設置基準に沿って整備されていると認識している。社会人受け入れについては、今後重要な課題として学校全体で体制の整備を検討すべきである。
- ⑤社会人対象のリカレント教育の準備を外部委員を含めて検討してみてもどうか。
- ⑥学生の興味を引くことと業界のニーズに応えることの両立は大変であるが、まずは業界のニーズを正しく把握できると良いと思う。
- ⑦返済すべき奨学金の対応率はどのくらいか把握しているのか？

項目 6 教育環境

評価：3.60

- ①専門学校としてのキャンパスの充実、施設・設備等の教育環境は、本学園の特徴であり、より積極的にPRしていきたい。
- ②充実した環境を維持するとともに、長期的な計画のもと整備を図られたい。
- ③学生数の減少傾向に歯止め、入学安定確保の実現が教育環境整備につながる。
- ④2（学内外実習施設、インターンシップ等の十分な教育体制）項は重要課題であり、インターンシップは早い時期から重視してきたが自己評価が低いのはなぜか？受入先の確保として、就職先企業などが活用できるのではないかと？

- ⑤ 100年に一度の変革期との自動車業界の認識の中、業界変化を見据えた自動車整備工学科の中長期的計画が不可欠である。地域企業との連携強化により、学内施設や学内外教育メニュー等の手当てが可能だと思う。
- ⑥防災に関しては不十分では済まされない。防災マニュアルは教職員への周知徹底に努めるとともに、毎年開催される全学避難訓練の際などに情報共有を図るべきである。
- ⑧Wi-Fi環境やPC端末の台数確保は、コストのかかる問題であるが整備状況を知りたい。またドローンの取り組みや現在の台数等をもっとアピールすべきである。
- ⑨Wi-Fi環境整備には防災関連の助成金などを活用することを検討してみてはどうか？
また、端末についてはBYOD（Bring your own device、※私的デバイスの持ち込み）や学生に買わせる方法もあるのではないか。
- ⑩環境整備は防災の一助にもなる。学校の外、通学路の防災マップなど、教員が勉強し学生と情報共有すると良い。

項目7 学生の受け入れ募集

評価：3.70

- ①新入生の確保がこの活動にかかっているので、全力で取り組まなければならない。
- ②学納金等の徴収金額は適切で、すべて明示しており、妥当であると判断できる。
- ③学生募集に関する基本的な流れは整備されているが、昨今の競合校などにおける入試戦略等を収集・分析し、必要に応じて対応策を検討する必要がある。
- ④学生の確保は学校経営上最重要であり、平成30年度の入学者増は評価できる。より情報提供を徹底し、募集活動にあたっていただきたい。
- ⑤この項目の校内評価は4となっているが、私の常々の主張からすれば3の評価である。安定的確保が実現したとき、評価4としたい。
- ⑥入学生が減少した学科については、その要因を分析し検証するとともに、様々な対策や改善が必要と考える。
- ⑦全学的なAO入試についての考えを伺いたい。
- ⑧自動車整備工学科の新入生減少の原因が把握できているかは別として、新たなキャンパスガイドはTISTの特徴や強みが具体的に示されており、広報における工夫を感じた。
- ⑨世の中の「医療職」への関心が下がっている中、安定的に学生が募集されると安心である。
- ⑩学生募集活動において、さまざまな改善方策をとっていることは安定確保に向けての形としては良い。また、AO入試については辞退もあるので、その点を注意して欲しい。
- ⑪過去の体験入学で参加者数が最低の年をバロメーターとするとよい。今年の参加者数増は広報活動を早めた効果だと考えられるが、早めることで高校との関係に問題はないのか。
- ⑫卒業生とのコミュニケーション、同窓会などの組織も含めての広報活動も検討する必要がある。学生確保は財務の安定に不可欠であり、1年中、念頭におくべきものである。
- ⑬キャンパスガイドの改良はよかったと思う。体験入学への保護者の参加状況が気になる。
- ⑭他校のオープンキャンパスなど、高校生が何校か見に行っているとすれば、伝え方・アピールの仕方も重要である。

項目 8 財務

評価：3.30

- ①平成29年度の収支を踏まえ、資金繰りの改善を図ったことは評価したい。今後、安定した学生の確保と適切な経費削減を継続し、収益基盤の強化を図ることが重要である。
- ②財務基盤の確立・安定のため、学生数確保と経費削減の両面でさらなる努力を期待したい。
- ③学校会計全般について、公認会計士の指導のもと適切に処理されていると評価する。
- ④今後、少子化に伴う学生数の減少は深刻であり、それに向けて常に見直しを図り経営の安定化を図り財務体質の強化に努めていくことは大切である。
- ⑤学生数でほぼ年間の収入が決まるので、その収入で余剰金が出るような予算にすることと、判り易い収支表を作るべきである。
- ⑥学生数が減少する中、多額の借入金を抱えており、返済負担が重要な課題と認識している。問題の先送りにならないよう、対策の立案と事業計画への織り込みをお願いしたい。
- ⑦1（中長期的な財務基盤の安定）、2（予算・収支計画）項が最重要であるが、3（会計監査が適正に行われている）項の監査が適正か否かは、財務環境・基盤への意見書として有功か否かではないか。3項の評価4はいかがか？
- ⑧社会人向け職業訓練事業を積極的に進めてはどうか。
- ⑨学校の収入は4月に確定している。サービスは向上させつつ経費節減に努め、インセンティブがいきわたるよう、予算が余った部門を優遇すべきである。

項目 9 法令等の遵守

評価：3.90

- ①学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準をはじめとする関係法令に基づいて、適切な運営がなされていると評価できる。
- ②個人情報社会の中で、学校を見る目も厳しい折、情報管理を学校全体で理解し、共有していくことは大切であり、その点、当学園で順守されていることは評価できる。
- ③引き続き法令等やコンプライアンス遵守への取り組みを実践し、適切な運営を継続願いたい。
- ④この項目の最大項は3（自己評価の実施と問題点の改善）項ではないか。〈最重要視〉。これまでの各項目でも、「問題点の改善に努めているか」が、不十分ではないか。
- ⑤自己評価で的確に問題点を捉えているのか、学校としてどうするかが甘い。PDCAサイクルを試行し、学校として課題を捉え、どう改善するのか、科学的に取り組むべきである。
- ⑥委員会評価をどう活かすのか、理事会からの評価はここまでの積み重ねのはずである。理事長よりまとめの話として、明確化された課題について話を伺いたい。

項目 10 社会貢献・地域貢献

評価：4.00

- ①地域社会、各高校、各企業より、より信頼され、期待される専門学校として発展していることは素晴らしいことである。これからもその魅力を十分に発揮してもらいたい。
- ②学校施設の開放や公開講座等は適切に行われていると判断できる。
- ③学生のボランティア活動の支援体制の整備については評価する。
- ④ボランティア活動を通じ、地域貢献や学生育成への取り組みを図っている。
- ⑤各項とも一定の努力をしている。総合評価4とする。